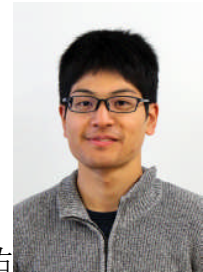


和歌山病院での実習を終えて



竹本 圭佑

今回呼吸器内科の臨床実習の一環として、和歌山病院で二日間実習させていただきました。

実習は先生方の講義を中心に、結核病棟の見学などをさせていただきました。大学での講義は膨大な知識を短期間で指導してもらう形になるので、どうしても受け身になって暗記中心になることが多く、考えることを諦めて闇雲に暗記してしまおうとすることが多くなっていました。今回の実習の講義では、X線の原理とはどういうものか、なぜ線が出来るのか、結核とは何なのか、どういう風に感染するのかといった基礎のところから丁寧に指導していただきました。そしてそれを基に、時間をかけて考える機会を沢山与えてくださり、その考えについて納得いくまで議論してくださりました。今回の講義を通して、自分たちで知識を運用して考えるための基礎力を増やすことができたと感じました。また、自分で考えることの大切さ、楽しさに再び気づかせてくださるもので大変有意義でした。

結核病棟の見学では、二重扉や陰圧管理など、設備の特徴を丁寧に指導していただきました。講義で結核について基礎から復習していただいたこともあり、ガウンや手袋などの結核感染の対策に不必要な設備がないことなどが深く理解できました。

最後になりましたが、南方先生をはじめ、和歌山病院のスタッフの皆様、お忙しい中ご指導いただき、ありがとうございました。和歌山病院で学んだことを今後の臨床実習、研修に生かし、一人前の医師を目指して今後とも精進していきます。

今回の実習では、先生方や臨床工学技士の方からセミナーをしていただいただけでなく、病院から駅まで車で送迎していただいたり、宿舎の準備をしていただいたりと和歌山病院の職員の皆さまには大変お世話になりました。心から厚く御礼を申し上げます。